

広報

もりの 中部の森林



10月は木材利用促進月間

写真：「カラマツ黄葉」(中信署管内)

特集

- ・農林水産副大臣による東信森林管理署管内の現地視察
- ・パトロール特集
- ・「自然を守る森林官になりたい」小学6年生の職場体験入門

各地からの便り

地元の公民館主催による国有林見学会の開催 ほかに

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局



私の森語り「森で愛ましよう」
ミス日本みどりの大使 上村さや香



2023/No.235

勝俣農林水産副大臣による
東信森林管理署管内の
現地視察

【東信森林管理署・企画調整課・資源活用課】

八月二十九日、勝俣農林水産副大臣が、国内林業の再生や成長産業化、丸太の生産、流通の現状を学ぶことを目的として、東信署管内の素材生産現場と東信木材センター協同組合を視察されました。



訓示を行う勝俣農林水産副大臣と東信署職員

午前十時頃、長野県佐久市に所在する東信署に到着された副大臣は、職員への訓示において、「職員の皆様には、日頃から現場の最前線で国有林野の管理経営にご尽力いただいている。近年は、大規模な豪雨災害や土砂災害が発生することから、林野庁職員として、国民の生命・生活を守るために、まずは間伐などの森林整備や治山事業を着実に実施していただくことが重要。また、山地災害が発生した際には、地域のために何ができるのかということに即座に考え、初動対応や速やかな復旧に取り組んでいただきたい」と述べられ、「人工林資源が本格的な利用期を迎えている今、地域の林業・木材産業の活性化に国有林としてどのように貢献していくか考え、広大なフィールドを有する国有林がその組織・技術力を活用して施業の低コスト化等の新技術の実証に積極的にチャレンジし、その成果を民有林へ発信することにより、地域林業の活性化、そして、我が国全体の林業の成長産業化の実現に貢献していただきたい」と

の激励を行いました。

訓示後、国有林の制服に着替え、香坂山国有林で素材生産現場を視察されました。

国有林の最前線で働く若手森林官等が現場を案内し、まずは、真田森林官から、国有林の分布状況や森林整備事業の概要、作業システムなどについて説明し、高性能林業機械のプロセッサやフォワーダが連携し、作業する場面を見ていただきました。

副大臣から、森林官の業務について質問があり、真田森林官からは、「各種事業の監督業務や国有林の管理を行っており、現場業務の比率が多い」旨を回答しました。

また、作業を行っている有限会社中島林業との意見交換では、若手社員の定着状況や、現場作業の大変さなどについて質問され、「高性能林業機械の導入により、省力化・効率化が図られ、オペレーターとして若手や女性も増えてきているが、暑い時期の人力による下刈り作業はとて大変」などの実態を確認されました。

続いて、ドローン（無人航空機）



森林官から高性能林業機械での作業を説明

の活用について、佐久森林官から、業務への活用方法を説明し、森林情報管理官が事業地の上空にドローンを飛行させ、その空撮映像を大型モニターでご覧いただきました。「署の職員のうち、どのくらいの方がドローンを操縦できるのか？」との質問があり、「ほとんどの職員が講習を受け操縦することが出来ます」と回答したところ、



職員が操作するドローンの空撮映像を確認

大変感心されていました。
次に、造林作業の効率化について、佐久森林官からコンテナ苗の利点や植栽方法の説明を行い、充電式の電動ドリルで植穴掘りができる「植穴名人」を使い、コンテナ苗の植栽を体験していただきました。

続いて、アウル(地上型3Dレーザ)の活用について、局資源活用課の主任主事から説明し、実際に計測したデータを確認していた際、立体的に見えるデータに



「植穴名人」を使ってコンテナ苗の植栽を体験

感心し、「こうした機器を用いて継続的にデータを蓄積することが重要」とのコメントがありました。
昼食の時間には、森林官も同席し、副大臣と、子育て世代のサポートやワークライフバランスについて、意見交換をしました。真田・佐久両森林官とも育児休業を取得した話や、局全体での取得状況などが話題となりました。

午後は、東信木材センター協同組合連合会に移動し、小相沢専務から、東信地域の木材流通や出荷



職員からアウルを活用した森林資源調査について説明

量、販売先・用途等の概要について説明を受け、施設内の丸太の自動選別機等を視察されました。副大臣から選別するときの視点について質問があり、原木の状態(直材か小曲りか、また、節や空洞の有無など)を見極めて行っている旨の回答がありました。

視察を終えた副大臣からは、「若い人たちが、しっかり林業に従事できるような取組、林業を支える人材を育てることが大きな課題の一つ。ドローンや現場での



東信木材センター小相沢専務から木材流通等について説明

調査、人の手で行っていたところの効率化が絶えず進んでいるという実感があり、先進的な機械を導入し、作業を効率化していくことが非常に重要だと感じた。現場の最前線に立つ皆さんには、目の前の課題に一つ一つ取り組んでいただくことが国民の期待にこたえることにつながるのだと思う。私も副大臣という立場で皆さんと一緒に森林・林業の課題解決に挑戦していきたいと思っています」とのお言葉をいただきました。



室堂のパトロール員が日々の活動後に眺めていた夕日に映える立山

四年ぶりに全地区での
高山植物等保護
パトロール実施

【富山森林管理署】

今年度も北アルプスの高山植物等保護パトロール（通称・グリーンパトロール）を実施し、室堂平周辺で活動する立山地区は、七月十九日から八月十七日までの約一ヶ月間、また、稜線で活動する薬師岳・雲ノ平地区（雲ノ平・三俣蓮華岳・薬師岳・五色ヶ原）、黒部地区（針ノ木岳・白馬岳）及び白馬・朝日・北又地区（朝日岳・白馬岳）は八月三日から二十二日までの二十日間にわたっての活動を行いました。

今年にはコロナ禍以降、四年ぶりに四地区全てで実施し、一般公募の二十代から五十代の男女十三名での活動となりました。

この活動は、地元自治体や山小屋関係者、関係団体からなる国有林野保護管理協議会が、パトロール員を募集し、高山帯の動植物の保護や山岳美化、登山マナーの啓発等を目的に昭和四十七年から始

まり今年で五十一年目となりました。

パトロール期間中は、室堂の施設を拠点とした活動や稜線の山小屋を移動しながらの活動となるため、普段の生活とは環境が大きく異なり、危険を伴いますが、病気やケガ等もなく全員無事下山することができました。

最終日の解団式では、パトロール員から活動報告が行われ、登山者のストックキャップの未装着、登山道の老朽化、外来植物の侵入の拡大等について意見や課題が報告されました。



看板の補修を行うパトロール員

高山植物等保護パトロール

【中信森林管理署】

七月下旬から八月上旬にかけて、上高地、美ヶ原、白馬、乗鞍の四地域で、それぞれ一日ずつ高山植物等保護合同パトロールを実施しました。

この活動は当署長が会長を務める「高山植物等保護対策協議会中信地区協議会」が毎年実施しているもので、入込者の多い登山道や遊歩道沿いを中心に、高山植物等保護の普及啓発と美化活動を行っています。活動の参加者は協議会員やその他関係団体で、今年度は延べ四十七名が活動に参加しました。

令和5年10月

〈特集／パトロール特集〉

当日は、高山植物等保護啓発カードを配布し、「植生保護のため、グリーンロープ内には入らないようご協力ください」「植物の摘み取りはしないようお願いします」など、訪れた家族連れ等に呼びかけ、同時にゴミ拾いも行い、四地域合わせて七・五割のゴミを回収しました。



啓発カードの配布（表面は高山植物やライチョウの写真、裏面をお願い事項を記載）

当協議会では、長年このような啓発活動を行っていますが、立入禁止区域に立ち入ってしまう人は後を絶ちません。また近年、乗鞍ではマイカー規制後に高山植物が増加傾向にある一方で、高山植物の宝庫である白馬では、ニホンジカが高山帯まで侵入しており、食害が心配されています。引き続き、定期的なパトロールを継続するとともに、山小屋関係者との協力をはじめ、効果的な保護対策を模索していきたいと考えています。

あもろう
天生県立自然公園
合同パトロール

利用者目線で安全チエック！

【飛騨森林管理署】

八月二十二日、飛騨市河合町天生国有林及び白川村大瀬戸国有林内の天生県立自然公園内において、天生県立自然公園協議会（以下「協議会」）、岐阜県飛騨事務所、飛騨市消防本部、飛騨警察署等の関係機関とともに合同パトロールを実施しました。

同自然公園は、標高約一、四〇〇以上に広がる約三ヶ所の高層湿原のほか、ブナ等の原生林、急峻な渓谷と連続する滝を見ることができ、約一、六〇〇坪の山岳公園で、湿原を周遊する探勝路や標高一、七四四メートルの靱糠山へ至る登山道などが協議会により整備されており、初夏から秋にかけて多くの方が訪れる場所となっています。

本パトロールは、秋の行楽シーズンを迎える前に歩道や休憩所など、施設の状態と案内標識などについて各機関の立場で確認し、安全上の留意点や改善点などを明ら

かにすることで利用者がより安全に利用できるように行われました。

二班に分かれ、ゆっくりと歩きながらパトロールを行い、当署では歩道沿いにある枯損木に主眼をおいて確認しました。

昼食をはさみ、約四時間かけてパトロールを終えた後、参加者による意見交換が行われ、歩道に敷いた板が腐食し交換が必要なこと、携帯電話が通じない地域で無線による緊急要請をする場合の留意点等について活発な意見が交わされました。

協力し合い、安全かつ快適に利用できるよう取り組んでいますので、紅葉シーズンには多くの方に訪れていただければと思います。



今年度設置された熊注意看板

富山市内の小学6年生が「夢の卵」育成事業で職場体験

【富山森林管理署】

富山県では、小学五・六年生及び中学一・二年生を対象に、描いている将来の夢の作文を募集し、その夢の実現をサポートする「夢の卵」育成事業を、(公財)富山県ひとづくり財団が二十年近く続けています。

今回、応募総数一、〇八九通の中から「自然を守る森林官になりたい」というタイトルで優秀賞に選ばれた富山市内の小学6年生、寺本芽生さんは、四季を通じて自然と触れ合ってきた中で、自然を守り未来へ残してゆくことを自身の夢と捉え、それに関わる仕事について調べたところ「森林官」という職業にたどり着き、作文につづりました。

これを踏まえ、財団から職場体験の要請があり、当署が予定していた八月二十二日から二十四日までの職場体験プログラム(インターンシップ)に参加の大学生二名とともに二日間の短期入門が実

現しました。

一日目は、間伐の作業現場を見学し、神通森林官から木材の伐採・搬出状況の説明を行った後、輪尺での胸高直径の計測やパーテックスでの樹高測定等の立木調査、ドローンによる上空からの確認、境界巡検など、森林官が実際に行っている業務について体験してもらいました。

二日目は、立山・室堂において、高山植物等の保護パトロールを行う立山森林官に同行し、観光客や登山者が多い中、啓発活動や美化活動に取り組みました。また、外来植物除去の取組や、自然保護の重要性について熱心に聞いていま

した。



ドローン操作の体験



神通森林官から現地の説明を受ける様子



標高約2,400mの立山・室堂にて



立山森林官からの聞き取り

当日は、天候により予定していた外来植物の除去作業は行えませんでした。パトロール中には普段なかなか姿を見せないライチョウに出会うことができました。

短期入門終了後の大学生と若手職員との意見交換会では、国有林での仕事や生活面に関する質疑応答に、メモを取りながら耳を傾けていました。また、寺本さんから若手職員に対し、森林官になつてからの目標について質問するなど、積極的に発言を行っていました。

最後に「自然を守るために、地域に貢献できる森林官の仕事は素晴らしいと思います」との感想がありました。

寺本さんの短期入門のレポートは、(公財)富山県ひとづくり財団のHPで紹介されています。



最終日の意見交換会



地元の公民館主催による 国有林見学会の開催

【南木曾支署】

七月二十三日、南木曾町読書の柿其国有林内において、地元の公民館北部分館主催による国有林見学会が開催されました。

この催しは、コロナ禍の令和三年に分館役員より、「コロナ禍で地区活動が停滞し、地域行事がなかなか実施できないので、この機会に裏山として存在する国有林を見てみる機会を設けたい」との協力要請があり計画されました。

しかし、台風の影響により中止となり、そのまま幻の行事となっていました。今年度の分館役員により再計画され、五月より打合せを行い、当日は子どもを含め、約五十名の地域住民がマイクロバス三台に分乗し、見学会に参加されました。

国有林内の林道を通行し、車窓より森林を見ていただきながら、目的地の皆伐跡地に到着し、バスを降りて対岸の国有林を眺めていただき、森林や皆伐跡地などにつ



閉会後に新築の柿其森林事務所前で記念撮影

いて説明しました。

参加者からは「こんな高いところまで車で来られて嬉しい」「実際に来て、説明が聞けて良かった」などの感想が寄せられ、また「奥三界はどの方向?」「天然公園はどこ?」など位置関係の質問もありました。

また、帰りには柿其溪谷にある霧ヶ滝も見えていただき、国有林見学会を通じて、地域の皆様に森林や林業等への理解や興味を持っていただける良い機会になりました。

白馬森林事務所・ 白馬治山事業所が完成しました

【中信森林管理署】

令和四年六月より新築工事を進めていました当署の白馬森林事務所・白馬治山事業所が令和五年八月に完成しました。

新しい森林事務所及び治山事業所は、木造在来軸組工法による二階建てで、一階は合同の執務室、二階が宿舍となっています。二階のフロアリング下木材には、繊維方向が直交するように積層接着したCLT(直交集成板)パネルを使用するなど、建物の床強度と断熱性を確保する構造を採用しています。また、車庫も含め、新築に利用した木材は約十四立方メートルであり、建築物が貯蔵している炭素は十一トンのCO₂となります。

また、地元の白馬村をはじめ、地域の方々にも新築のお披露目を行い、今後も白馬小谷地域の森林・林業事業、山地災害の防止等、国有林野事業の推進拠点としての役割が期待されています。



白馬森林事務所・白馬治山事業所の外観

白馬森林事務所・白馬治山事業所新築工事(長野県北安曇郡白馬村大字北城5598-1)に利用した木材に係る炭素貯蔵量(CO₂換算)

| 延べ床面積 | 国産材利用量 | 国産材の炭素貯蔵量(CO ₂ 換算) | 木材全体利用量 | 木材全体の炭素貯蔵量(CO ₂ 換算) |
|--------|--------|-------------------------------|---------|--------------------------------|
| 169.2㎡ | 11㎡ | 8t-CO ₂ | 14㎡ | 11t-CO ₂ |

この表示は、林野庁「建築物に利用した木材の炭素貯蔵量の表示ガイドライン」(令和3年10月1日付け林政産第85号林野庁長官通知)に準拠し、この建築物に利用した木材が貯蔵している炭素(CO₂換算)の量を示すものです。

木材は、森林が吸収した炭素を貯蔵しており、木材を建築物等に利用していくことは、「都市等における第2の森林づくり」としてカーボンニュートラルへの貢献が期待されています。

【計算式】 木材の材積(m³)×密度(t/m³)×炭素含有率×44/12=炭素貯蔵量(CO₂換算) (t-CO₂)

- 製材 ヒノキ 1.85㎡×0.383 t/m³×0.500 ×44/12=1.3 t-CO₂
- 集成材 スギ 4.09㎡×0.331 t/m³×0.500 ×44/12=2.5 t-CO₂
- 製材 アカマツ 2.71㎡×0.452 t/m³×0.500 ×44/12=2.2 t-CO₂
- 合板 カラマツ 2.35㎡×0.435 t/m³×0.500 ×44/12=1.9 t-CO₂
- 製材 ペイマツ 0.86㎡×0.500 t/m³×0.500 ×44/12=0.8 t-CO₂
- 製材 樹種不明 2.07㎡×0.542 t/m³×0.493 ×44/12=2.0 t-CO₂

計10.7 t-CO₂

※木材使用量には、事務所庁舎・車庫・宿舍(延べ床面積17.82㎡)2棟に使用した木材使用量を含みます。

なかつがわ山の日「山DAY」
中津川市をあげての二大行事へ

【東濃森林管理署】

八月十一日、当署では山の日に合わせて、中津川市、岐阜県恵那農林事務所、市内の各森林組合、建築組合、恵那農業高等学校、岐阜県森林文化アカデミー等、多くの関係者とともに『なかつがわ山の日「山DAY」』を開催しました。

今回で六回目を迎えるこの行事は、中津川の山で育った木に触れ、木を使ったり、山の中を散策したり、高性能林業機械を見学したりする体験型のイベントで、今年からはメイン会場である当署エリアの他、市内十二箇所にサテライト会場を開設し、森林・木材のことなら何でも体験できるものとなりました。

当署のブースでは、今年も子どもたちに人気の「ミニ椅子作り」を行い、朝早くから受付に長蛇の列ができるほどの盛況ぶりです。予定していた受付人数を急遽増やすなどの対応に追われましたが、恵那農業高等学校の皆さんの応援もあり、スムーズに体験することができました。



高校生スタッフも大活躍したミニ椅子作り

また、恵那農林事務所による「林業機械VR体験」、飛騨五木（株）による「林業カードゲーム」では、当局のホームページに掲載されている「林業従事者写真コンテスト」の作品も展示し、実際の山での仕事をイメージしながら体験やゲームができるようにするなど、参加団体間の連携により、林業を分かりやすく紹介する工夫も行われました。

終日大盛況であった本イベントも含め、これからも地域の関係者の方々とともに、森林・林業の情報発信を行ってまいります。

先人の苦勞と名古屋の
木材産業の歴史を学習

【名古屋事務所】

八月二十日、あいち森林インストラクター会の会員九名が、今年度第三回目の研修交流会として、熱田神宮にある「熱田神宮こころの小径」でのクスノキやムクノキの大木等の観察を行った後、「熱田白鳥の歴史館」を訪れました。

当日は連日の暑さの中、参加者は若少なめでしたが、東濃署管内加子母裏木曾国有林から出材された大ヒノキ年輪板や、三ツ紐伐りの写真、木曾式伐木運材図会や写真等による白鳥貯木場の今昔などについて職員から説明を受け、昭和初期の斧や鋸による伐採、集材、筏下りによる搬送などのビデオを鑑賞しました。

参加者からは、「名古屋の木材産業の歴史が分かった」「写真が多く、年代別によく整理されていて分かり易かった」「先人の苦勞を感じた」「展示の仕方が工夫されている」「この施設そのものの存在を知らなかったが周りにPRしたい」など、心強い感想が寄せられました。



熱田白鳥の歴史館の見学